

2010年度(平成22年度)学校評価自己評価表

最終更新日	2011年(平成23年)2月10日
-------	-------------------

校番 32	福山市立松永小学校
-------	-----------

1 学校教育目標

自ら学び 心ゆたかに ねばり強く

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

松永に誇りを持ち、地域社会に貢献できる子どもを育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 子どもは満足、教職員は充実、保護者・地域は期待する学校 -  
 基礎学力と生活学力を身につけている子ども  
 指導力向上のために主体的に技と心を磨き、地域・保護者から信頼される教職員

3 自校の現状分析

新学習指導要領が目指す、確かな学力を育てるための取組みや授業改善を進めてきたがまだ十分でなく課題がある。生徒指導においては、時間を守ることやねばり強く物事に取組む姿勢は出てきたが、自ら挨拶をする、だまって掃除を行う事ができない実態がある。

昨年度まで2カ年継続していた既習事項である「学習のしつけ」等、習得を中心とした取組みを継続し、活用、探究する力を育成する「授業」の改善と心を豊かにする「読書貯金」に引き続き取り組む。その具体的な指導の中で、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育てていく。

また、児童にマナーや公共心などの規範意識を身に付けさせ、当たり前のことが当たり前に行える児童の育成を図り、家庭との連携を深め、家庭学習等の学ぶ環境づくりを進めていく。体力づくりにおいては、「体力・運動能力ステップアップカード」を活用し、新体力テスト結果を県平均を超える数値目標にし、体育の授業を中心とした系統的・組織的な体力の向上に取り組む。

市民から信頼される学校づくりを進めていくために、わかりやすい情報発信を積極的に行い、学校と地域や保護者をつなぐ取組みをさらに進めていく。

継続的に掲げてきた学校教育目標の実現に向け、校長のリーダーシップのもと組織的マネジメントをふまえた学校運営を行うことにより、より積極的に取り組む人材を育成する。

4 研究主題

(1) 研究主題

思考力・表現力を高める授業づくり  
 ~既習事項の活用と学び合いを通じた系統的な国語科指導のあり方~

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	教育研究支援事業(国語)	平成20年~平成22年

5 今年度の重点目標と設定理由

重 点 目 標	設 定 理 由
「既習事項の活用」 「学び合い」	国語科の既習事項を明らかにし、説明的な文章の系統的な読み方を指導することを通して、思考力・表現力を高める。そのために、単元の学習過程を工夫する。 自分の考えをもたせ、その自分の考えをもとに多くの人と交流することを通して、思考力・表現力を高める。そのために、学習展開を工夫する。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

## 7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 ( 成果 取組み 成果と取組み に着目)	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
確 かな 学 力	3	「習得・活用・探究」を目指す授業研究を行い学力調査で、全国平均・県平均にする		継続	学力調査結果を活用した国語科を中心とした授業改善の取組みを行い検証する	A	低・中・高学年で、「授業改善シート」をもとに、思考力・表現力をつける国語科を中心とした授業研究を年2回以上実施する	a	達成度100% 全学級公開授業を実施し、成果と課題を検証し、共有することができた。	
							「家庭学習の手引き」を活用した自主的な学び、自主学習ノートを活用し「できる」の児童を90%以上にする	a	達成度100% 自主学習ノートを活用している3年生以上平均94%で、復習だけでなく予習の割合が増えてきた。 「問いに対応した答え方」を意識する児童が増えてきたが「話すこと聞くこと」については今後も取り組んでいく。	
	3	本を読むことが「好きになった」児童を90%以上にする		継続	心を豊かにする読書貯金の取組みを行う	A	読書貯金を低学年90冊、中学年4500ページ、高学年7200ページの達成率を7月・12月・2月に把握し、90%以上にする	b	達成度85% 読書だよりで感想文や課題図書を紹介及び年2回の読書週間を実施して意識づけをしてきた。	
							家庭との連携を図り「テレビなしデー」、「親子読書」の取組みを80%以上にする	a	達成度100%。 「テレビなしデー」は78%「親子読書」は83%の達成度である。 読書貯金は月別目標値を決め取組んできたが評価の仕方を工夫していく必要がある。また、読み聞かせなど継続して行い本に対する興味を高める。	
豊 かな 心	2	道徳の時間などで学んだことを「心のノート」等を活用し日常生活で振り返り「実践できた」児童を80%以上にする		継続	校内に道徳教育推進のチームをつくり、全教職員で取組みを行う	A	保護者・地域の人々をゲストティチャーとして招き、道徳の授業を学年で1回以上は行う	a	達成度100% 9月には道徳参観日を全学級で実施するなど全校的な取組みとすることができた。また、地域のゲストティチャーを招聘することにより体験的な道徳を行うことができた。	
							生活ノート等を活用し「実践できた」という児童を80%以上にする	a	達成度100% 生活ノートやふり返しカードの活用により児童の充実度は高まっている。 今後は地域の先人などの教材化に向けた取組みを進めていく。	
	3	「自ら挨拶をする、時間を守る、だまって掃除」の「できる」の児童を80%以上にする		継続	規律3要素について、状況に応じた指導を徹底する	A	「自ら挨拶をする」「時間を守る」「だまって掃除」の規律3要素の達成率を7月・12月・2月のアンケート調査を実施し、80%以上にする	a	達成度100% 「自ら挨拶をする」93%「時間を守る」90%に対して「だまって掃除」については達成率が57%と低い。 挨拶や時間を守ることは児童の意識は高まり習慣化している。 3要素の平均では達成しているが「だまって掃除」については課題が残っているので今後も継続していく。	

最終更新日 2011 年(平成 23 年) 2 月 10 日

2010 年度(平成 22 年度) 校番 32 福山市立松永小学校 No.( 3 )

## 7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 ( 成果 取組み 成果と取組み に着目 )	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期(中期)経営目標 の達成状況
健 や か な 体	4	「体力・運動能力 ステップアップ カード」を活用し 目標を持って取 組む児童を 8 0%以上にする	継続		「体力づくりがんばりカ ード」を通して、目標を 持って体力向上に取組ま せる。新体力テスト結果 の県平均以上を 70%に する	A	体力向上に向けた実践的な研修会を 2 回実施 する	b	達成度 90% 体力向上に向けた研修会を 6 月と 8 月の 2 回実施した。 「体力づくりがんばりカード」は毎日実施した児童は月平均 7 1%であった。	
							体力向上担当者を中心とした、体力向上全体 計画を作成し、7 月、12 月、2 月に調査を実施する	a	達成度 100% 新体力テストにおいて県平均を下回った「50m走」「握力」 について 12 月に再調査を行い全体の 75%が県平均を上回っ た。 今後も体育の授業でサーキットトレーニング・綱引き・ダッシ ュなど改善のための運動を継続していく。	
	4	「三食きっちり」 運動を進め、「で きた」という児童 を 95%以上に する	継続		朝食を毎日食べて来る児 童の達成率を学期に 1 回 調査し 95%以上に する	A	食育推進の視点で学期に 1 回以上の取組みを 行う	a	達成度 100% 各学級で食育に関する授業に取組み保護者啓発をした。生活調 べアンケートによると朝食を食べている児童は 98.4%であ る。 食育の授業や保護者啓発の取組みを今後も継続して行い、食習 慣の充実に努める。	
力 量 あ る 教 職 員	4	専門性と授業力 を高める優れた 実践のノウハウ を校内研修に反 映するを 90% 以上にする	継続		専門性を高める校内研修 の実施と「教科リーダー」 を育成する	A	授業改善に生かせるレポートを 1 回以上は作 成する。夏季研修・冬季研修を中心に交流を行 う	a	達成度 100% 授業改善に生かせる報告書を全教諭が作成し、交流するこ とができた。	
							教科リーダーによる模擬授業 1 回、演習を 1 回以上行い、専門性を高める取組みを行う	a	達成度 100% 教科リーダーによる演習を情報教育・体育において実施した。 模擬授業の代わりに教科リーダーによる講話・演習を実施し専 門性を高める研修を行うことができた。	
	4	学校評価の充実 に向け松小プラ ンを作成し、達成 率を 90%以上 にする	継続		校長のリーダーシップの もと、マネジメントサイ クルで組織的な学校経営 を行う	A	学校評価自己評価表に沿った「松小プラン」 の進捗状況について 7 月・12 月・2 月に把握 し、達成率を 90%以上にする	a	達成度 100% 学校評価自己評価表の達成に向けた「松小プラン」を 6 月中に 作成し、改善策のマネジメント沿って取組むことができた。 次年度も各部長・主任やプランナーと連携しながら、成果を上 げる取組みを進めていく。	

## 7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 ( 成果 取組み 成果と取組み に着目 )	(最終) 指標 評価	評価項目・指標等 改善方策	短期 ( 中期 ) 経営目標 の達成状況
市民 から 信頼 され る 学 校	4	地域・保護者から 信頼される学校 を目指し、指導に 対しての保護者 からの肯定的評 価を 85% 以上 にする		継続	わかりやすい学校の情報 を定期的に発信する	A	学校評価自己評価表の成果や課題を記述した 学級通信を学期に 2 回以上発行し 80% 以上の 達成率にする。	a	達成度 100% 学校、学年、学級の通信の発行を行い、学習や生活のようすや 今後の協力を呼びかけることができた。 学年・担当を中心に声を掛け合い、通信の内容の交流を行い、 内容をさらに充実していく。保護者アンケートの肯定的な評価を さらに高めるようにする。	
	4	教育公務員とし ての自覚と使命 感を確立する研 修を 10 回以上 実施する		継続	服務規律等の研修を学期 に 3 回以上実施し、達成 率を 7 月・12 月・2 月 に検証し 100% 以上に する	A	ロールプレイなど当事者意識を高め、自らを 振り返る工夫をした研修を学期に 1 回以上実施 する	a	達成度 100% 年間 20 回実施し、ワークショップ研修など参画型の事例研修 や校内不祥事防止標語づくりなどが意識の向上につながった。 作成した不祥事防止標語を掲示したり、新聞記事を配布したり することにより職員の意識を高めるなど、他校の取組みを学びな がら服務規律の厳正確保を工夫している。 次年度もロールプレイなど当事者意識を高める服務研修の充 実を行っていく。	